

第97回役員会・第43回経営審議会 議事要録

日 時：平成29年11月27日(月)15:00～

会 場：大学本館 E-701 会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、片山理事、柳井理事、梶原理事、田上理事
井上委員、今川委員、上田委員、柏原委員、竹島委員、松永委員

(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議 案

- 1 平成29年度北九州市立大学教職員の給与改定等について

報 告

- 1 JICA並びにカンボジア国・労働職業訓練省及び教育青少年スポーツ省との合意書の締結について
- 2 地域貢献度ランキングについて
- 3 「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) enPiT-Pro」の採択について

議案1 平成29年度北九州市立大学教職員の給与改定等について

<質疑応答>なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 JICA並びにカンボジア国・労働職業訓練省及び教育青少年スポーツ省との合意書の締結について

<質疑応答>

[理事]

○非常に興味ある素晴らしい取組みをされていると思うが、市から頼まれるということだけでなく本学としての意義はどのようなものがあるか。

[報告者]

○本学としては中期計画の中でアジアの産業技術や人材育成について貢献していくことが求められているため、この事業を通じてカンボジアの産業の高度化と合わせて本学の人材育成に貢献していきたいと考えている。

[理事]

○学生が交流するなどの具体的なことは考えているか。

[報告者]

○スタディツアーを行って現地に学生を派遣し、現地の学生との交流や北九州市の水ビジネスや国際貢献等を肌で感じてもらいたい。また、COC+と連携して地域と国際化という視点から新たに事業を立ち上げ、JICAでの取り組みや地域の企業の方々の国際展開を学生に教授して、海外に目を向けてもらいたいと考えている。

[委員]

○この3年でどのような規模で、どの程度の質まで行うのか。また、3年後にどのような角度で評価する予定か。

[報告者]

○正規科目となって永続的に展開していくというのがカンボジアからの目標値である。カンボジアの学生や企業の方のレベルが分かっていないので、これからヒアリングする中で習熟のレベ

ルをどこに設定するのか考えていきたい。

[委員]

○おそらく3年間は、入口の競争のところだと思うので、それ以降のステージで何が足りて何が足りないのか見ていけたらいいと思う。

[報告者]

○適宜 JICA とも相談しながら行っていきたい。

報告2 地域貢献度ランキングについて

<質疑応答>

[委員]

○これは1位を目指してやったのか。

[理事]

○上位を狙ってはいるが、必ずしもこれに縛られるつもりはない。ただし、それぞれの学部、学群が地域志向で意識を持っていて、結果として上位にランキングされるのは良いことだが、1位を意識して努力しているわけではない。

[委員]

○本学では地域の貢献はずっと続いて、他大学が追随してきて相対して遅れてきているのではないかという懸念もある。組織や制度には力は入っているが、他のものから力が抜けているのではないかとも感じるがいかがか。

[理事]

○このアンケートは、今回で11回目である。かつては多くの大学が地域に向いていなかったが、その中で本学は、組織や制度が充実しており1位が続いた時期もあった。その後、地域志向の大学が増えてきて、設問や配点の仕方が変わってきた。たとえ1位を狙って努力してもアンケートの内容によっては、必ずしも1位になれないという状況である。例えば今回の分析で改善を要する取組みについては、今後やっていかないとはいえない。例えば地元就職率が平均より低いので、本学ではCOC+で地元就職する学生を増やそうとしている。また、現在本学には、社会人に対する履修証明制度がないので履修証明ができるような制度設計を検討していくかどうか。

[委員]

○北九州市長は、市内就職を10%増やすと言われているが、市内に就職した学生たちの3年後5年後がどうなっているのかということ調査していただき、やってきたことや履修してきたことと学生たちの志と将来がどうつながっていくのかの検証なども含めてやっていただき、10%増やしていただきたいと思っている。

[理事]

○常にPDCAを回しながら行っていきたいと思う。

[副理事長]

○検証をしなくてはならないというのは、おっしゃる通りで大事なところだと考えている。一方でランキングについては様々なものがあり、質問項目や基準はそれぞれの組織が勝手に決めているところがある。そのため、テクニカルなところで点数を上げようとする事もできなくはない。ただそれは、単にランキングを上げることが目的化してしまい、本質的なところを見失ってはいけないというところもある。結果的にランキングが上がるということは我々としてもありがたいことで大学のプレゼンスとして利用はしたいと思っているが、それを目標にするのは本来の大学の目的ではないと考えている。その辺はご理解いただきたい。

報告3 「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) enPiT-Pro」 の採択について

<質疑応答>

[理事]

○社会人が対象とのことなので、提供する時間や場所が重要だと思うが、E-learning という話もあったが、例えば街中で共同して行うとか土日とか考えているのか。

[理事]

○基本的に土日と夜間に開催する予定である。ただし、県内の70数社の企業にアンケートをとったが、それでも参加できない人もいるため、遠隔で参加できるような計画もしている。

[理事]

○例えば、小倉サテライトキャンパスなども想定しているのか。

[理事]

○小倉サテライトキャンパスや北方キャンパスにも遠隔のシステムを置く予定で、他大学ともコースを共有できるようなシステムを考えている。

[委員]

○今、企業の中でも必要な人材の構成が変わっていつている。経済系の人間に必要なIT化やIoT化というのはとてもニーズが高い。全体のプログラムを見ても他大学にも入っていない。学部のenPiT2は、情報セキュリティの専門家やAIやデータベースを扱う専門家、そういうレベルのものを使える実務者を想定していて、そうすると社会人で受けたいたい人や企業単位で受講したいという声も出てくるのではないかと思います。申請時点では、この内容かもしれないが社会状況に合わせて対応していただきたいと思います。また、大きな予算なので、成果を求められる。間接経費が取れるからには、大学全体でのバックアップ体制を強化してもらいたい。

[理事]

○今回のアンケートは、企業が中心で、フィンテックのようなものが対象に入っていなかった。今後、複数の銀行にヒアリングなどしたいと思う。経営情報学科のある北方、BSのある小倉サテライトキャンパス、そしてひびきのに遠隔を置くため、そういった連携も可能になってくると思うが、ひびきのだけで完結しないので、助走期間が必要と考えている。

[理事]

○国からの貴重な補助金で、IT人材を育成するというので、大学全体として支援体制をとっていききたい。また、他大学との連携も重要とのことなので、他大学との関係も強化しながら進めていききたい。

[理事]

○先日5つの大学の教員と事務局の責任者も交えて協議を行った。各論を詰めて、何ができそうで何ができないのか、工程表を作って具現化するためのアクションを起こしている最中である。

[理事長]

○本件、IoTということで産業界のレベルでも取り組んできている。現場の改善活動は進んでいるが、ホワイトカラーの改善活動というのは、アメリカが非常に進んでおり、アメリカでは25年くらい前から現場の人間がプログラムを書いてデータを解析するというのを当たり前に行っている。日本では、そういった作業は技術者がやるものとされて全く進んでいない。突然状況が変わったのではなく、継続して変わっている。要件設定をして俯瞰できる人材がいればIoTを駆使できる状況になる。日本は、やっとなアメリカに追いつくツールが出てきていい機会だと思っている。プログラムを設計できない人間がIoTを使える時代に大きく急が変わってきている。これは、いいチャンスである。

[理事]

○プログラムを1から作るのではなく、ブロックベースで作るようになってきたため、全体的なシステム設計のできる人間ならある程度答えが出せるようになってきている。地方の中小企業は、ビッグデータやAIといったものをどうしていいかわからないという話もあり、実際に演習プログラムでは、ブロックベースで作れば簡単にできるというところからアプローチして、セキュリティ等様々な技術を広く学んでいただきたいと思います。

[委員]

○他大学の外国語学部の教育に関わっているが、外国語を一生懸命やっている人はプログラミングに向いていると思っている。私共の会社でも約1000人のSEがいるが、半数以上は文系である。語学をやっている人は文法をコツコツと学んでおり、この能力を持っている人はITに向いているのではないかとされている。AIの力でTOEIC800点が取れる時代になってきたときに、もち

ろん語学系の需要は沢山あるだろうが、語学だけでなく、もう少し沢山組み合わせて、IT 関係の教育というのも向いているのではないかと思っている。